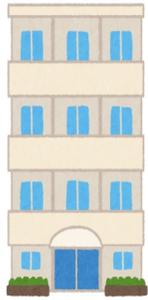


タワマン・高級住宅

見上げるほど立派な高いマンションやおおきなお家…
高層マンションや高級住宅には秘密もいっぱい！？



『ハピネス』桐野夏生著
光文社文庫 2016

華やかなタワーマンションを舞台にくり広げられる、見栄や嫉妬渦巻くママ友たちの物語。ファッション雑誌『VERY』の連載作品らしい！ママたちのおしゃれな洋服にも注目！

『夜行観覧車』湊かなえ著
双葉文庫 2013

夢の高級住宅地、ひばりが丘の一戸建てに引越してきた遠藤家。ある日、向かいの高橋家の主人が何者かに襲われ死亡する事件が起きる。幸せそうなお金持ちの向かいの家にいったい何が？

家にまつわるこわい話



読んだあと、トイレやお風呂にいけなくなるかも！？

『いるのいないの 怪談えほん3』(絵本)京極夏彦作 町田尚子絵 東雅夫編 岩崎書店 2012

田舎のおばあちゃんの家ってなんだか不気味。真っ暗な天井や物置をじっとみつめていると…。最後のページ、怖いのが苦手な方、心臓の弱い方はご注意ください！絵本だと思ってあなどるなかれ！これは大人が読んでも本当にこわい！

『ようこそ、わが家へ』池井戸潤著 小学館文庫 2013

ごく普通の会社員の倉田の家は、ここ最近、何者かにいやがらせを受けている。顔見知りのだれかのしわざか？それとも、まったく知らない人のしわざなのか？日に日にエスカレートしていきやがらせに、倉田家族はどんどん追い込まれていく。

『営繕かるかや怪異譚』小野不由美著 角川書店 2014

閉めたはずの襖がいつのまにか勝手に開いている、屋根裏部屋でだれかの足音がするetc.「営繕(=家を作ったり、修理したりすること)かるかや」を営む尾端(ハナ)のところに舞い込んでくる依頼は、なぜかいつもただの営繕の依頼ではなくて…。

床下の家

わたしたちが住んでいる地面の下にも世界はあって、家もある！

『借りぐらしのアリエッティ シネマ・コミック 16』メアリー・ノートン原作 米林宏昌監督 宮崎駿脚本・企画 丹羽圭子脚本 文春ジブリ文庫 2014

人間の家の下に暮らす背丈15cmの小さなアリエッティ一家は、人間のお家から生活に必要なものを借りて生活している。ただし、人間には絶対に見られてはいけない。14歳になったアリエッティは、初めてお父さんと一緒に借りに出かけるが…。原作本、DVDもあり。DVDも貸出可。



アトリエ 仕事をするためのもうひとつの家

『森のノート』酒井駒子著 筑摩書房 2017



東京と山の中にあるアトリエとを行き来しながら生活している絵本作家の酒井駒子さん。自然いっぱいのアトリエで暮らす酒井さんが、日々を書き記した美しいエッセイ。酒井さんの飼う2匹のかわいい姉妹猫も登場♪酒井さんの特集した雑誌『MOE 2018年10月号』白泉社には、すてきなアトリエの写真、そしてエッセイの中に登場する風景や場所の写真も！

『百年の家 the House』(絵本) J・パトリック・ルイス作 ロベルト・インノチエンティ 絵 長田弘訳 講談社 2010



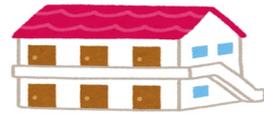
1656年に建てられ、一度はだれも住まなくなり廃屋となったわたし(家)を1900年、子どもたちが見つけてくれた。結婚式、葬儀、第二次世界大戦…1900-2000年、歴史とともに変わってゆく人、周囲の環境を見守り、支え続けたわたし(家)の100年を美しい絵とともに。

はと時計11月号

松蔭中高図書館 2018年11月6日発行 library@shoin-jhs.ac.jp 担当：川内



私事ですが、今年の春に引越しをしました。荷造りや手続き、荷解きなど、引越しというのは、精神的にも肉体的にも疲れますね。ですが、新しい家というのはなんだかワクワクします。



アパート・団地・シェアハウス

『木暮荘物語』三浦しをん著 祥伝社文庫 2014

小田急線世田谷代田駅から徒歩5分、木造アパート「木暮荘」に暮らす人たちのおはなし。壁の薄い、ポロポロのアパートだからこそ生まれる隣人との触れ合いにほっこりしてしまう1冊。

『たんぼほ団地のひみつ』重松清著 新潮文庫 2018

杏奈の祖父、徹男さんが住むつぐみ台三丁目団地は、かつて大人気だったNHKのドラマ「たんぼほ団地のひみつ」の撮影で使われた団地だった。そのつぐみ台三丁目団地が今年取り壊されることになり、父の直樹さんとともに久しぶりに団地を訪れた杏奈。杏奈は、そこで不思議な体験をする…。団地の過去と現在をめぐり、時空を超えた心温まるおはなし。

『スロウハイツの神様上・下』辻村深月著 講談社文庫 2010

人気脚本家でアパートのオーナーの赤羽環、高中生に大人気の小説家チヨダ・コーキ、そしてクリエーターの卯たちが暮らすまるでキフ荘のようなアパート、「スロウハイツ」。夢を持つもの同士、仲良く暮らしていたが、チヨダ・コーキの小説を溺愛する自称小説家加々美莉々亜の入居、そしてスロウハイツへ届いた一通の郵便物によって彼らの生活は少しずつ変化していく…。最後まで読んでらきっと、もう一度読み返したくなる1冊。

『十一月の扉』高樓方子著 新潮文庫 2006

中学生の爽子は、3学期が始まるまでの2ヶ月間を家族のもとから離れて、すてきな建物「十一月荘」で下宿することになる。あたたかくてやさしい十一月荘の住人たちとの触れ合い、十一月荘で出会う耿介への恋心、爽子が十一月荘でノートにつむいでゆく物語、爽子の十一月荘での特別な2ヶ月間を描いた1冊。11月のこの季節に読むのにピッタリ♪

本校では貸出人気は衰えません！幽霊たちが住み着いたアパート！大人気『妖怪アパートの幽雅な日常』シリーズも♪

事故物件

家にまつわるこわい話としてよくあがるのが事故物件の家。条件が いいのに安い物件には、おそろしいワケが!?安さを重視した若い人には最近意外と人気なのだそうです。わたしは絶対無理です…。

『残穢』小野不由美著 新潮文庫 2015

岡谷マンションと、マンションに隣接する岡谷団地に住む人々の部屋から聞こえる不気味な音や声。以前そこに住んでいた人はだれか？マンションと団地の過去には一体何が？両方の過去を探っていくと恐ろしい事実が判明する。手に置いておきたくないほど怖い一冊！本当にこんな『残穢』のような恐ろしい物件は存在するの？『宝くじで1億円当たった人の末路』より『事故物件を借りちゃった人の末路』鈴木信行著 日経BP社 2017では、事故物件公示サイトの運営管理人の大島てるさんから聞く事故物件の真実！実家が不動産業で、小さい頃からいろんな物件を見てきた大島さんが立ち上げたこのサイト、大手不動産会社もよく利用しているのだそう。

『瑕疵借り』松岡圭祐著 講談社文庫 2018

「瑕疵借り」とは、自殺や事故死などの心理的瑕疵(事故物件)の家にあって住むことで、その次にそこに住む人への告知義務をなくすこと。この瑕疵借りを生業としている藤崎竜也は、事故物件に住みながら、瑕疵(=事故)に隠された謎を暴いている。事故物件はただ怖いだけじゃない。瑕疵の裏に隠された思い、真実に触れたとききっとあなたは涙する！4つのお話がつまった短編集。

夢のような家

『魔法があるなら The Greatest Store in the World』アレックス・シアラー著 野津智子訳 PHP研究所 2003



夢のような家といえば、ヘンゼルとグレーテルが迷い込んでしまった「お菓子の家」はあまりにも有名ですが、貧しくて、住む家がなくなってしまったわたし(オリビア)とママと妹のアンジェリーナが次の家を選んだのは、生活用品や家具はすべて揃ってる(もちろん売り物ですが!)高級デパートの「スコットレーズ」。閉店時間になり、真っ暗になったデパートのなかに忍び込んだ3人は、デパートの中で暮らし始めるが…。

家の間取り図

『間取りと妄想』大竹昭子著 亜紀書房 2017



無類の間取り好き(=マドリスト)の著者が送る、マドリストにはたまらない!?ちょっとクセのある間取りに住む人たち13人のおはなし。それぞれの冒頭にその作品の舞台となる間取り図がついていて、間取り図をみながら、家の中を想像しながら読むのもおすすめ♪